

行雲流水

No. 199 令和4年4月15日発行

「あいさつ」は、お互いの幸せを生み出す賢い知恵

校長 寒河江 正人

本日15日（金）**新学期、第2週終了**。朝の校内に**元気な声**が響き渡る。

「おはようございまーすっ！！」「おはようございまーすっ！！」

本校の生徒諸君の「あいさつ」は、実にみごとだ。すばらしい。りっぱだ。

こういう元気な「あいさつ」に触れると「**気持ちが爽やかだ**」「**うれしい**」「**感心する**」。

では、生徒諸君。そもそも「あいさつ」とは、何ぞや？ どうして大切なの？

「あいさつ」は、漢字で「挨拶」と書く。

「挨拶」は、「押す」という意味。「拶」は、「迫る」という意味を示す。

本来は、「禅宗において、門下の僧に『押し問答』をして、修行を積んだ悟りの浅い・深いを試すこと」を指す言葉とのこと。

転じて、現在は「相手に対して『尊敬や親愛の気持ち』を表す動作・言葉・文面』などのコミュニケーションの手段を意味するようになった。

「おはようございます。」英語では「**グッドモーニング**」、フランス語では「**ボンジュール**」。

ドイツ語では「**グーテンモルゲン**」、イタリア語では「**ボンジョルノ**」。

韓国語では「**アニョンハセヨ**」、中国語では「**ザオシャンハオ**」という。

一番大事なポイントは「年齢・性別・国籍などの別にかかわらず、お互いの尊敬や親愛の度合いが深いほど、信頼が生まれ、より良いコミュニケーションが生まれるということは万国共通のルールなのだ。」ということ、をしっかり理解しているかということだ。

もう一つ大事なポイントは「あいさつ」から「3つの幸せが生まれる」ということだ。

その1 「自分と相手の間の「緊張をほぐす」ことができる。」（**お互いニッコリ**できる）

その2 「相手との「会話のきっかけ」になる。」（**話しかけやすくなる**）

その3 「相手に「良い印象」をもたれ、人間関係が良くなる。」（**いいなあ**と思える）

生徒諸君、これからの**未来**を生き抜いてゆく君たちには、しっかり**心**に刻んで欲しい。

私たち人間の「あいさつ」は、お互いの尊敬や親愛・信頼・コミュニケーションを深め、
「**3つの幸せ**」を生み出す「**賢い賢い知恵**」なのだよ、ということ。